

寛政十一未のし

尾流結江

雜旦

白拍子
白拍子

正月は何事もなせし
相付名 松古

去貞

お月へ酒の玉房の梅分
信松

六の子もねをとりくや世に
百子

お月小退居させぬまを産分
小千代

海宿と名田のあふり月
折雨

浪も中も浪歌しく柳の
吉原

海宿も月事も何れも水目
四季

解のうき余さあそ居松の
お通

年
お通

お通

お通

夕暮小舟も舞り年の浪
休下

紅葉西行の海宿を愛せん
お通

お通

お通

お通

お通

お通

お通

何れもく煙捲くは結非分
お通

新すも能目油はゆき
お通

汁のやき
お通

精治

